令和６年度　第３回神戸市就学・教育支援委員会

議 事 要 旨

１ 開催日時 令和６年 12 月 12 日（木）15 時～17 時

２ 開催場所 神戸市総合教育センター701 号室

３ 出席委員 石倉委員長、上原委員、河﨑委員、関口委員、西田委員、二宮委員

オブザーバー　米谷校長、前田校長、福島校長（代理）、島﨑園長

４ 議 事

（１）「特別支援教育相談センター状況報告」

●委員長

・「特別支援教育相談センター状況報告」について事務局からの説明を踏まえ、ご意見をいただきたい。

・事務局に質問だが、資料の１（１）②の個別相談実施数について、令和５年度は年間件数か。また、資料の１（１）③について、小学校の特別支援学級と、特別支援学校の小学部に関する円グラフという認識でよいか。

○事務局

・個別相談実施数について、合計欄に記載の実施数はそれぞれ 10 月末時点の実績であり、令和５年度の年間件数は 427 件である。資料の１（１）③については、ご明察のとおり。

●委員

・就学相談は、各保育園に随分周知されているようだが、なかには知らない園もある。

・各園には紙を配布して案内したり、保育園に巡回して案内したりしていると思うが、他に全体に周知するために工夫していることについて教えてほしい。

○事務局

・周知はとても大切にしている。２月頃に、こども家庭局等、５歳児に関わりのあるすべての関係機関に対して、就学相談について案内している。

・各家庭には、神戸市の広報誌や、すぐーるを通じて案内している。すぐーるは就学前の世帯には配信できないが、就学している兄弟がいる場合には配信できるため、すぐーるでも案内するようにしている。

●委員

・特別支援学級や特別支援学校に対して抵抗のある保護者もいる。相談すると自動的に就学先を決められてしまうのではないかと思われ、どうしても拒否感をお持ちの保護者の方もいらっしゃる。

・その場合には小学校長へ相談されると思うが、学校と特別支援教育相談センターとの連携はどのようになっているのか。

○事務局

・各学校で 11 月頃に就学前の健康診断を実施しているが、そこで教育相談を希望されることもある。１年生は通常の学級で頑張りたいと思われ、すでに学びの場を決められている

ケースも多い。
・各学校では、保護者と十分に話し合い、保護者の意向を最大限尊重しながら、粘り強く就学相談を実施している状況である。
○オブザーバー
・就学前の健康診断の際に、心配な家庭については校長室での面談を案内している。心配で面談に来られる場合もあれば、学校側で情報を把握していても相談に来られない場合もある。
・保護者の方に対しては、お子様の実態も踏まえて、一緒に学びの場を決めていこうと伝えるとともに、特別支援教育課にも相談して対応している。
●委員
・学校と教育委員会で情報共有ができているのであれば、次の学年からでもつながると思うためよいと思う。
●委員
・事務局に質問だが、1年生は通常の学級に在籍し、2年生から特別支援学級へ入級する場合は途中入級になるのか。
○事務局
・年度途中に特別支援学級へ入級する場合は途中入級になるが、年度替わりで入級する場合は新入級となる。
・就学前に就学相談につながらなかった場合でも、特別支援教育相談センターでは就学後にも教育相談を行っている。教育相談は、小学校1年生や2年生の児童についての相談が多く、早期にケアができたらよいと思っている。
●委員長
・事務局に質問だが、中学校の進学に向けての相談は、昨年度に比べて増えているのか。
○事務局
・中学校の進学に向けての相談は、今年度から本格的に開始したところであり、昨年度に比較してかなり増えている。
●委員長
・昨年、特別支援教育相談センターの状況について話を伺ったときも、前年よりも相談が増えているとのことであった。
・相談が増えることはよいと思うが、相談の質を担保するためにも、対応する体制が大丈夫なのか懸念している。
○事務局
・相談件数が増えることはよいことであり、しっかり対応していきたいと思っている。
・相談の質を担保するためには相談体制の強化が必要だと思うため、来年度に向けて対応する人数や体制について協議しているところである。
●委員長

・最近の状況をみていると、体制を整えれば整えるだけ相談件数が増えていく状況かと思うため、相談の質を担保できるような体制を整えていただきたいと思う。

●委員

・神戸市は、特別支援教育相談センターで相談を受けるというシステムがしっかりできていると思う。幼児の場合は、特別支援教育相談センター以外にも、こども家庭局でも相談を実施している。

・幼児期の相談については、それぞれの機関で相談を実施しているが、今後神戸市は組織として、連携や体制をどのようにしていくのか。

○事務局

・そこについては課題だと思っている。「神戸つばめプロジェクト」を実施しているように、幼児期から小学校教育とのつなぎを大切に考えているところである。

・教育委員会とこども家庭局で連携や相談するような機会もあるため、今後できる範囲で、少しずつ歩み寄りながらすり合わせていきたいと思っている。

●委員

・現在は、通級指導教室の教員が中心で対応していると思うが、きっちりと体制が整っていくとよいと思う。